

STAGE

AMUSEMENT SQUARE

新たな期待へ

6月15・16日イージシアター我楽多屋第四回公演

「水底の柩」(みずぞこのひつぎ)

〈文／菅沼他美夫〉



八戸に於いて活躍中のイージシアター我楽多屋は若い集団である。若いという事はかなり大事な要素で、芝居作りには多大なる時間と労力を必要とするからである。パラボラ、そしてスペースベンという二ヶ所の舞台で精力的に芝居を作り続けていくことに驚きさえ感ずる。だが半面、基本的な部分の発声や作品の完成度を高めていくという作業をどう並行させていくかは、問われるところになると思う。

チラシ、パンフ等に芝居に対するこだわりが感じられる。芝居はそこから、もう始まっているのだから。もう一つ我楽多屋には脚本を書き演出もする長尾広海が存在がある。彼女の脚本は繊細かつ内的必然性で構成され、セリフが散文詩的などころもあつたりする。果して役者がどれだけ理解し、それを観客に正確に伝えられるのか?……役者の力量がかなり問われていく。今回の「水底の柩」(みずぞこのひつぎ)は、タイトルからして詩的である。パラボラの会場の装置は三方が舞台という構造であつた。何かやってくれそうな期待をさせて、暗転からセリフが始まった。

水野(本村拓雄)を淡々とひたむきに演じている姿が好感が持てる。ただ長いセリフになってくると、舌がもつれたりして一寸気になった。妻(桶田圭子)の笑顔が素敵だった。雰囲気も良い感じを出していたと思う。紙面の都合上、他の出演者について感じたことを少し書きたい。カウンスレー役の天野(山咲紗里)は、舞台で見たときにどういふ役なのかわかり難かつた。つき離す物言いではなく、やさしく包みこむようなセリフのほうが良かったのではないか。

道化J(高橋一直)、道化Q(大久保すばる)のからみは充分舞台の構成を形づくっていた。二人のやりとりは素直に笑える所があつた。道化K(浅坂忍)はセリフよりパントマイム等での表現で今までとは又、違った面をみさせてくれた。ミカ(木村あゆみ)のセリフも聞きやすかつたし、役柄にぴつたりだつた。初々しさが印象的だつたユタカ(鈴木利典)は、長いセリフをきちんと粒立てて言う練習を期待する。団長(平間幸夫)のセリフが良く聞こえるいい声で安心してみていられた。メイ(宮崎睦子)の役柄は歌うたいという設定とは後で知つた。団長の妻とばかり思つていた。歌が少し苦しく聞こえた。舞台で皆で歌えば良かったのでは?エリ(工藤美奈)は娼婦という雰囲気が充分でいた。ただセリフが不明瞭になるところが気になつた。花火屋ギン(館かずと)はセリフ、役柄の工夫を楽しんでやつていて、いい雰囲気が出ていた。火花屋テツ(小屋敷暁)の若々しく体をはつた力感あふれる演技等、個性あふれるアクターがそろつた。最後に音や光をもつと効果的に使つてほしかつた。特に火花の場面では、八戸で一押し我楽多屋に皆でみに行こう。

皆さんこんにちは。私達は劇団「ムツサー5」という者達です。平成8年4月19日にスペースベンで産声を上げ、劇団「我楽多屋」に育てていただき、これから一人歩きしようという新生劇団です。芝居好きの高校生達が、課外活動と称して皆で集う場です。

私達のはじめての一人歩き、未熟な点が多々あると思いますが、暖かく、大きく、長い目で見守って下さい。一ヶ月間よろしく願ひします。

ムツサーリーダー 小屋敷暁
キャプテン 荒谷太郎
頭領 鈴木利典
団長 高橋一直
部長 堺健太郎

FLSNS
ROOMS
決定

8月は市内高校生5人の集団「ムツサー5」のマンスリー。

9日 「三葉虫な人々LIVE」
※この日は音楽となります。

16日 「怪談」男の勝負「OWNWA」
YS 作/ジャーヒー他

23日 「くものす」 作/インド洋
OUTSIDER 作/季阿玉

30日 「音色(トーン)他」一本
作/季阿玉

※全て、開演夜7:30、料金五〇〇円

お問い合わせ先
八戸市柏崎1の11の8
☎&FAX 43-9876